
苫小牧市立病院新改革プラン自己評価

令和 3 年 9 月

苫小牧市立病院



【目 次】



苫小牧市立病院新改革プラン評価基準表	1
苫小牧市立病院新改革プラン評価項目Ⅰ	2
【医療機能等指標に係る項目】	2
【収支改善に係る項目】	3
【経費削減に係る項目】	4
【収入確保に係る項目】	5
【経営の安定化に係る項目】	6
苫小牧市立病院新改革プラン評価項目Ⅱ	7
【医療従事者の確保・育成】	7
【収入増加（維持）への対策】	9
【経費削減（抑制）への対策】	10
【その他】	11
苫小牧市立病院新改革プラン評価項目Ⅲ	12
【毎年度の収支計画】	12

苫小牧市立病院新改革プラン評価基準表

新改革プランの進捗状況に対する評価は、A～Eの5段階評価で、それぞれの評価基準は次のとおりです。

評価	評価基準
A	プランの目標値を余裕をもって達成し、ある程度の付加価値が生じた。
B	プランの目標値は達成した。
C	プランの目標達成に向けて取組みはしているが、現状未達成である。
D	プランの目標達成に向けて取組めていない。
E	検討して（されて）いない。
—	評価対象外

苫小牧市立病院新改革プラン評価項目 I

【医療機能等指標に係る項目】

単位：人、件

項番	項目	2年度 目標値	2年度 実績値	自己評価・分析																					
				評価	コメント																				
1	救急患者数	4,500	3,648	C	<p>当圏域で一次救急を担う「夜間・休日急病センター」と、輪番制で二次救急を担う当院・王子総合病院の救急患者数の合計は、元年度と比較して12,063人減少しています。</p> <p>コロナ禍や緊急事態宣言を受けて、外出機会が減ったため急病、交通事故など救急医療の需要が減少したものと考えられ、当院においても、元年度と比較して1,511人減少して3,648人となり、目標を達成できませんでした。</p> <p>※当圏域の救急患者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>市立</td> <td>5,159人</td> <td>3,648人</td> <td>△1,511人</td> </tr> <tr> <td>王子</td> <td>6,103人</td> <td>3,985人</td> <td>△2,118人</td> </tr> <tr> <td>救急センター</td> <td>16,138人</td> <td>7,704人</td> <td>△8,434人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>27,400人</td> <td>15,337人</td> <td>△12,063人</td> </tr> </tbody> </table> <p>【参考】 一次救急～夜間・休日急病センターや休日当番の医療機関などによって行われる入院や手術を伴わない医療 二次救急～入院や手術を要する症例に対する医療</p>		元年度	2年度	増減	市立	5,159人	3,648人	△1,511人	王子	6,103人	3,985人	△2,118人	救急センター	16,138人	7,704人	△8,434人	合計	27,400人	15,337人	△12,063人
	元年度	2年度	増減																						
市立	5,159人	3,648人	△1,511人																						
王子	6,103人	3,985人	△2,118人																						
救急センター	16,138人	7,704人	△8,434人																						
合計	27,400人	15,337人	△12,063人																						
2	手術件数	2,500	2,091	C	<p>マンパワーを含む限られた医療資源を新型コロナウイルス感染症の患者に集約化するため、新患の受入制限や不急の手術を延期したことにより、患者数・手術件数が減少し、目標を達成できませんでした。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2,590件</td> <td>2,091件</td> <td>△499件</td> </tr> </tbody> </table>	元年度	2年度	増減	2,590件	2,091件	△499件														
元年度	2年度	増減																							
2,590件	2,091件	△499件																							
3	紹介患者数	10,000	7,412	C	<p>新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、紹介患者の受入制限を行ったことにより、目標を達成できませんでした。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>8,995人</td> <td>7,412人</td> <td>△1,583人</td> </tr> </tbody> </table>	元年度	2年度	増減	8,995人	7,412人	△1,583人														
元年度	2年度	増減																							
8,995人	7,412人	△1,583人																							

苫小牧市立病院新改革プラン評価項目 I

【収支改善に係る項目】

単位：%

項番	項目	2年度 目標値	2年度 実績値	自己評価・分析	
				評価	コメント
4	経常収支比率 ※算出式 $\frac{(\text{医業収益} + \text{医業外収益}) \times 100}{(\text{医業費用} + \text{医業外費用})}$	100.4	109.3	A	新型コロナウイルス感染症の対応により、医業収益及び医業費用は減少しましたが、感染症対策に係る補助金の活用により医業外収益が大幅に増加したことから、経常収支比率は、目標値を8.9%上回り、目標を達成しました。 【参考】 経常収益 = 医業収益 + 医業外収益 経常費用 = 医業費用 + 医業外費用 経常収支 = 経常収益 - 経常費用
5	医業収支比率 ※算出式 $\frac{\text{医業収益} \times 100}{\text{医業費用}}$	94.0	79.0	C	医業収益が大幅に目標を下回ったことにより、医業収支比率は、目標値を15%下回り、目標を達成できませんでした。 【参考】 医業収支 = 医業収益 - 医業費用
6	資金不足比率 ※算出式 $\frac{\text{資金不足額}}{\text{事業規模}}$	5.9	2.8	A	純利益を計上できたことから、資金不足額が減少し、目標値を3.1%下回り、目標を達成しました。 【参考】 資金不足額 = (流動負債 + 建設改良費等以外の経費の財源に充てるために起こした地方債の現在高 - 流動資産) - 解消可能資金不足額 事業の規模 = 医業収益の額 - 受託工事収益の額

苫小牧市立病院新改革プラン評価項目 I

【経費削減に係る項目】

単位：%

項番	項目	2年度 目標値	2年度 実績値	自己評価・分析	
				評価	コメント
7	職員給与比率 ※算出式 $\frac{\text{職員給与費} \times 100}{\text{医業収益}}$	51.4	62.9	C	職員給与費は看護師給の増等により目標値を若干上回る事となり、患者受入制限等により医業収益が大幅に減少したことから、目標値を11.5%上回り、目標を達成できませんでした。
8	材料費比率 ※算出式 $\frac{\text{材料費} \times 100}{\text{医業収益}}$	21.7	22.4	C	患者受入制限等により材料費は減少となり、目標値を下回ることができましたが、医業収益の大幅な減少により、目標値を0.7%上回り、目標を達成できませんでした。
9	後発医薬品 (ジェネリック)使用割合 ※算出式 $\frac{\text{後発医薬品数} \times 100}{(\text{後発医薬品のある先発医薬品数} + \text{後発医薬品数})}$	80.0	96.0	A	これまでの後発薬品使用促進の取組により、96.0%となり目標値を大幅に上回り、目標を達成しました。

苫小牧市立病院新改革プラン評価項目 I

【収入確保に係る項目】

単位：%、円

項番	項目	2年度 目標値	2年度 実績値	自己評価・分析	
				評価	コメント
10	病床利用率 ※算出式 $\frac{\text{延入院患者数} \times 100}{(\text{稼働病床数} \times \text{実日数})}$	80.0	57.0	C	新型コロナウイルス感染症患者を受け入れるため、一般患者の受入制限等を行ったことにより、目標値を大幅に下回り、目標を達成できませんでした。
11	入院単価 ※算出式 $\frac{\text{入院収益}}{\text{延入院患者数}}$	59,000	61,285	B	新型コロナウイルス感染症患者の入院料として、通常の入院料より高い点数であるハイケアユニット入院医療管理料を算定できるよう届出を行いました。また、入院患者制限中は、重症度の高い患者の入院を優先したため、結果として入院単価が高くなり目標を達成しました。
12	外来単価 ※算出式 $\frac{\text{外来収益}}{\text{延外来患者数}}$	12,700	14,123	B	新型コロナウイルス感染症に係る診療報酬上の臨時特例措置として、乳幼児の外来診療において上乘せ算定が可能になったことや、単価の高い抗癌剤治療や新型コロナウイルスに関する検査が増加したことにより、目標を達成しました。

苫小牧市立病院新改革プラン評価項目 I

【経営の安定性に係る項目】

単位：人、百万円

項番	項目	2年度 目標値	2年度 実績値	自己評価・分析	
				評価	コメント
13	医師数 (臨床研修医等も含む)	79	76	C	年度途中での退職等により、目標値を3人下回り、目標を達成できませんでした。
14	企業債残高	8,906	8,863	B	計画的な医療機器の更新により、目標値を43百万円下回り、目標を達成しました。 今後も効率的かつ効果的な設備投資を行い、企業債残高の縮減に取り組んでいきます。
15	一時借入金残高	1,018	1,298	C	年度末における資金不足額は大幅に減少したものの、感染症対策に係る補助金の未収金が588百万円あり、年度内に一時借入金の返済に充てることができず、目標値を280百万円上回り、目標を達成できませんでした。

苫小牧市立病院新改革プラン評価項目Ⅱ

【医療従事者の確保・育成】

項番	項目	内容	目標年次	自己評価・分析	
				評価	取組状況及びコメント
1	安定した医師確保	<p>大学医局を中心とした医師派遣機関との良好な関係を維持するとともに、北海道や地元医師会と連携し、今後も安定した医師確保に努めます。</p> <p>また、医師事務作業補助の内容を拡大するなど、医師の負担軽減措置を継続して取組めます。</p>	28年度～	C	<p>北海道大学や札幌医科大学などに医師の派遣をご協力いただきましたが、目標の医師数を達成することができませんでした。</p> <p>引き続き、勤務医負担軽減計画により進捗管理を実施するとともに、医師の負担軽減に努めていきます。</p>
2	看護師、コメディカルなど診療体制に見合う人材確保	<p>今後の診療報酬改定に伴い必要となる職種・人材については、庁内関係部署と協議の上、確保に努めます。</p>	28年度～	C	<p>令和2年度実施の看護師・助産師採用試験（令和3年4月採用）合格者22名のうち、21名が学資金貸与制度利用者で、内訳は看護師が18名、助産師が3名でした。</p> <p>助産師については、退職者と同人数の採用者を確保できましたが、定員数には達しておらず、今後も人材確保に向けた定着管理と採用管理を着実に実施していきます。</p>
3	初期臨床研修医受入体制の強化	<p>2年間研修を行う基幹型の初期臨床研修医の定員は令和2年度採用から1学年7名としております。</p> <p>「研修医に選ばれる病院」であり続けることは、将来の医師確保にも繋がりますので、今後も研修医の受入体制を強化していきます。</p>	28年度～	B	<p>新型コロナウイルス感染症の流行に伴う行動制限等により、医学部生の見学者数が減少しましたが、見学会や説明会をオンラインで実施しました。</p> <p>令和元年度から定員を7名とした基幹型の初期臨床研修医について、令和2年度（令和3年4月採用）の日本医師臨床研修マッチングプログラムでのマッチ者数は4名のみでしたが、独自採用による2次募集をオンラインで実施し、定員の7名を確保しました。</p>

苫小牧市立病院新改革プラン評価項目Ⅱ

【医療従事者の確保・育成】

項番	項目	内容	目標年次	自己評価・分析	
				評価	取組状況及びコメント
4	院内研修等による多職種連携の更なる推進	院内研修等により「横の連携」を強化し、部門間の様々な課題を共有できる環境づくりを推進していきます。	28年度～	B	新型コロナウイルス院内感染防止対策により、参集型の研修の開催を制限して、DVD視聴による研修や書面での会議等を実施し、部門間の情報共有を図りました。
5	認知症ケアチームなどのチーム医療の強化	従来からある「感染対策チーム」、「褥瘡（床ずれ）対策チーム」など、医師を中心とした多職種によるチーム医療を推進していきます。 平成28年10月からは、認知症患者に対する対応力や医療の質の向上を図ることを目的とした「認知症ケアチーム」の活動を開始しています。	28年度～	B	コロナ禍においても、定期的なラウンドやカンファレンス等を継続し、チーム医療の提供体制を維持することができました。 令和2年度診療報酬改定において新設された、認知症ケアチームと栄養サポートチームに係る「せん妄対策加算」、「摂食嚥下支援加算」の算定を開始しました。 感染対策チームにおいては、新型コロナウイルス感染症対策において、その専門性を十分に発揮し、重要な役割を果たしました。
6	働きやすい院内環境の整備など	育児休業、育児短時間勤務制度の制度周知や、院内保育所の24時間保育の継続及び入退所条件の緩和など、「早期に復職しやすく、復職後も働きやすい」環境整備を行います。	28年度～	B	院内保育園における24時間保育及び生後57日目以降の乳児受け入れ継続、並びに育児短時間勤務等の制度周知により、医師をはじめとする病院職員の復職に繋がりました。
7	医療機関・介護施設等、多職種との情報交換会の開催	医療機関・介護施設等、多職種との情報交換会（egg）を開催し、地域における多職種協働の円滑化と連携強化を図ります。	28年度～	C	多数の多職種で構成される参集型の情報交換会eggは、新型コロナウイルス院内感染防止対策により、開催を見送りました。

苫小牧市立病院新改革プラン評価項目Ⅱ

【収入増加（維持）への対策】

項番	項目	内容	目標年次	自己評価・分析	
				評価	取組状況及びコメント
8	急性期一般入院基本料1（旧7対1入院基本料）などの施設基準の維持 ※平成30年改定で名称変更	急性期一般入院基本料1（旧7対1入院基本料）など「病院経営の根幹となる施設基準」を維持していくために、常に情報収集を行い、迅速に対応できる体制を維持していきます。	28年度～	B	コロナ禍においても、病棟再編やそれに伴う看護師の異動等を柔軟に実施し、7対1の看護配置や重症度、医療・看護必要度等の基準を満たし、急性期一般入院基本料1（旧7対1入院基本料）を維持することができました。
9	地域包括ケア病棟の活用	苫小牧市は、平成22年から超高齢社会となり、75歳以上の入院患者が増加して、在宅療養を必要とする患者も増えています。 このため、地域包括ケア病棟を活用するなどして、「急性期経過後に引続き入院治療を要する状態（ポストアキュート）の患者」と、「在宅や介護施設で療養中に症状が急性悪化した状態（サブアキュート）の患者」の受け入れの拡大を図っていきます。	28年度～	C	新型コロナウイルス感染症患者の受入病棟として運用したため、本来の地域包括ケア病棟としての活用はできませんでした。
10	ハイケアユニット（HCU）の運用	地域包括ケア病棟の運用開始により、更なる活用が可能になった「ハイケアユニット」の利用を拡大し、質の高い医療を提供します。	28年度～	B	重症化した新型コロナウイルス感染症患者の受け入れを行いました。
11	かかりつけ医との連携強化	「顔の見える関係」、「信頼される関係」を構築する取組を行い、かかりつけ医との連携を強化していきます。	28年度～	B	コロナ禍においても感染状況を把握しながら医療機関訪問を実施しました。電話・文書等で当院の診療制限等の情報提供等を適宜行い、協力体制が密になるよう努めました。 また、かかりつけ医との情報共有・診療相談を適時行うため、一部の診療科でモバイル端末を活用を継続し、連携及び利便性を向上させました。

苫小牧市立病院新改革プラン評価項目Ⅱ

【経費削減（抑制）への対策】

項番	項目	内容	目標年次	自己評価・分析	
				評価	取組状況及びコメント
12	医療機器の効率的で効果的な更新整備	今後、移転時に購入した医療機器及び施設設備等の更新が続くことが想定され、多額の更新費用が見込まれることから、更新時期や費用対効果も検証し、急性期病院として高度な医療を提供する役割を担いながら効率的で効果的な設備投資を行っていきます。	28年度～	B	令和2年度は、循環器X線撮影における血管撮影装置等を更新しました。 また、補助金を活用し、人工呼吸器等の新型コロナウイルス感染症対策に係る医療機器を重点的に購入することで、医療体制の強化を図りました。 今後も急性期病院及び第二種感染症指定医療機関としての役割を担うため、補助金等を有効に活用しながら、効率的に更新していきます。
13	後発医薬品（ジェネリック医薬品）の拡大	国で示しています数量シェア目標が平成29年度に70%以上、平成30年度から平成32年度までの間のなるべく早い時期に80%以上とされていることから、できるだけ早期の目標達成に向けた取組を進めていきます。	28年度～	B	新型コロナウイルス感染症の影響による後発医薬品販売停止などがあり、前年度に比べ使用割合は減少しましたが、代替薬剤の確保に努めるなどして目標を達成できました。 次年度も目標値を上回ることができるよう取組を継続していきます。
14	材料費価格の適正化	医療材料費等コスト削減コンサルティング業者とともに、医療材料等の取引業者との交渉で病院経営にメリットとなるような有利な条件等を引出し、材料費等の削減を図ります。	28年度～	B	医療材料の新規採用や切替を行う際に、全国の医療機関の購入価格を比較、分析するベンチマークを活用し、取引業者と価格交渉を行いました。 今後も材料費価格の適正化や削減を目指し、積極的な価格交渉に努めます。
15	エネルギー診断等による光熱水費の削減	節水装置の取り付けやエネルギー使用量などを低減させることを目的とした省エネルギー診断業務委託を行い、効率的なエネルギー等の利用に向けた取組を実施します。	28年度～	B	令和2年度は医局棟の増築とともにコロナ禍による設備運転の増加などがありましたが、エネルギー使用量の増加を最小限にとどめることができました。 エネルギー削減実績としては、省エネルギー基準値（24年度から28年度までの5年間のエネルギー使用平均値）と比較して約5.9%の削減を達成しました。

苫小牧市立病院新改革プラン評価項目Ⅱ

【その他】

項番	項目	内容	目標年次	自己評価・分析	
				評価	取組状況及びコメント
16	院内スペースの狭隘化解消	<p>入院前、入院中、退院に係る様々な相談をワンストップで受ける窓口として設置を検討している「入退院支援センター（仮称）」の開設スペースの確保や、医師数の増加に伴う医局スペースの狭隘化など、院内スペースの不足が大きな課題となっています。</p> <p>今後は庁内関係部署と協議を行い、増築等も含め狭隘化の解消を図り、患者サービスの向上と業務効率の改善を図っていきます。</p>	29年度～	B	<p>令和元年度に医局棟が完成し、課題となっていた医局スペースの狭隘化を解消することにより、医師の勤務環境の改善を図りました。</p> <p>移転後の空きスペースを活用する方法として検討を進めていた、小児リハビリテーションスペース・患者サポートセンター等の設置については、新型コロナウイルス感染症に対応するためのスペースを確保した影響を受けて保留となりました。</p> <p>一方、限られた院内スペースを有効に活用することにより、がん相談支援センターを開設するなど、コロナ禍においても患者サービスの向上に努めました。</p>
17	経営形態の現状と見直しの方向性	<p>現状の経営形態（地方公営企業法の一部適用）を基本としていきますが、経営基盤の安定化に向け、状況に応じては地方公営企業法の全部適用など最適な経営形態を検討していきます。</p>	29年度～	—	<p>現時点においては現状の経営形態（地方公営企業法の一部適用）を継続する考えですが、今後当院を取り巻く環境の変動に合わせて、制度面・運用面におけるメリット・デメリットを検証しながら、将来の経営状況を見据えて、ふさわしい経営形態を検討していきます。</p>

苫小牧市立病院新改革プラン評価項目Ⅲ

【毎年度の収支計画】

単位：百万円

項番	収益的収支	2年度 目標値	2年度 実績値	増減	自己評価・分析	
					評価	コメント
1	病院事業収益	10,911	11,655	744	A	目標値より上回りました。
2	医療収益	9,661	7,987	▲ 1,674	C	目標値より下回りました。
3	入院収益	6,290	4,868	▲ 1,422	C	目標値より下回りました。
4	外来収益	2,590	2,380	▲ 210	C	目標値より下回りました。
5	その他	781	739	▲ 42	C	目標値より下回りました。
6	医療外収益	1,208	3,632	2,424	A	目標値より上回りました。
7	特別利益	42	36	▲ 6	B	ほぼ目標値どおりでした。
8	病院事業費用	10,880	10,695	▲ 185	A	目標値より下回りました。
9	医療費用	10,273	10,110	▲ 163	A	目標値より下回りました。
10	職員給与費	4,970	5,024	54	C	目標値より上回りました。
11	材料費	2,093	1,790	▲ 303	A	目標値より下回りました。
12	経費	2,302	2,366	64	C	目標値より上回りました。
13	その他	908	930	22	C	目標値より上回りました。
14	医療外費用外	550	517	▲ 33	A	目標値より下回りました。
15	特別損失	57	68	11	B	目標値より上回りました。
16	経常収支	46	992	946	A	目標値より収支プラスが増となりました。
17	当年度純損益	31	960	929	A	目標値より純利益が増となりました。
18	内部留保資金	719	648	▲ 71	—	目標値より減となりました。

項番	資本的収支	2年度 目標値	2年度 実績値	増減	自己評価・分析	
					評価	コメント
19	資本的収入	760	1,101	341	A	目標値より上回りました。
20	企業債	300	282	▲ 18	B	目標値より下回りました。
21	他会計負担金等	459	457	▲ 2	B	ほぼ目標値どおりでした。
22	その他	1	362	361	A	目標値より上回りました。
23	資本的支出	1,140	1,461	321	C	目標値より上回りました。
24	建設改良費	330	661	331	C	目標値より上回りました。
25	企業債償還金	768	762	▲ 6	B	ほぼ目標値どおりでした。
26	その他	42	38	▲ 4	B	ほぼ目標値どおりでした。
27	資本的収支	▲ 380	▲ 360	20	A	目標値より収支マイナスが減となりました。

28	その他資金変動額	▲ 265	▲ 185	80	—	目標値より下回りました。
29	単年度資金収支	105	1,063	958	A	目標値より上回りました。
30	累積資金収支	▲ 1,357	▲ 996	361	A	目標値より収支マイナスが減となりました。

31	資金不足算入対象外 流動負債	778	770	▲ 8	—	目標値より下回りました。
32	資金不足額	579	226	▲ 353	A	目標値より不足額が減となりました。
33	資金不足比率	5.9	2.8	▲ 3.1	A	目標値より不足比率が減となりました。